
特集Ⅱ

全学シンポジウム「大学の知と高校生の学力」

名古屋大学大学院教育発達科学研究科と附属中等教育研究センターは、2002年6月20日に名古屋大学国際フォーラムのサテライト・フォーラムの一環として国際教育フォーラム「中等教育の国際比較—中学・高校の学力とカリキュラムを考える—」を開催し、日本を含む環太平洋6ヶ国の専門研究者の発表を踏まえ、各国の中学・高校の学力とカリキュラムを中心にその共通性と独自性について検討した。

「大学生の学力低下」が広く論議されているなか、以下の要領で開かれた全学シンポジウムでは、名大の各専門分野の研究者が高等教育を推進し、大学で知の構築を探求していくうえで高校生に期待する学力とはどのようなものか、について率直に意見交換をおこない、いわゆる従来の受験学力を超える、21世紀にふさわしい真の学力のありかたを研究討議した。

併せて、高大連携を推進する際の具体的取り組み計画について、附属学校を含めて参加者が自由に検討したが、ここでは第1部の全体シンポジウムのうち、来賓ごあいさつと4人の提案者の報告、そして2人の指定討論について、その概略を記録しておきたい。

(編集：今津孝次郎・記録：田川隆博)

と き：2002（平成14）年11月9日（土）10：00～15：00

ところ：附属学校

〔第1部〕全体シンポジウム「大学の知と高校生の学力」

10：00～12：30 附属学校総合情報教育棟 第1総合教室

ごあいさつ：伊藤 正之（副総長）

司 会：村上 隆（教育発達科学研究科長）

提 案 者：浪川 幸彦（多元数理科学研究科）

玉腰 暁子（医学系研究科）

周藤 芳幸（文学研究科）

根本 二郎（経済学研究科）

指定討論者：小川 克郎（名誉教授・前環境学研究科長）

丸山 豊（附属学校）

〔第2部〕懇談会「中高大連携による先導的実験研究開発をいかに進めるか」

13：30～15：00 附属学校第1会議室

司 会：速水 敏彦（前附属学校長）

今津孝次郎（附属学校長・中等教育研究センター長）